2026年全国児童養護問題研究会（養問研）大会
第53回　東京大会　大会アピール

世界を見渡すと、アメリカがイスラエルと共にイランを攻撃し戦争状態に、
ロシア、ウクライナ、中東情勢の不安が続き戦火にさらされる中、多くの子どもをはじめ人間のいのちが奪われています。
また、日本の子どもをめぐる現状をみても、「不登校、いじめの増加」、「児童虐待の相談件数の高止まり」、「子ども若者の自殺の増加」等々、依然厳しい実態にあります。

社会的養護をとりまく情勢においては、現在「改正児童福祉法」の実施が進められているときでもあり、とくに、これまでも養問研として中心的テーマとしてきた「子どもの意見表明権の尊重」を如何に実現し具現化するのか、また、社会的養護を必要とする子ども・若者の「自立支援」をどこまで誰が責任をもって実施するのかというテーマが問われているところです。また、全国的にも展開されている「都道府県社会的養育推進計画」の後期計画の進捗状況を注視するとともに、国や自治体の行政や社会に向けて児童養護の現場からの具体的かつ積極的な提案が必要な時です。

このような中、養問研第53回全国大会が昨年に引き続きここ東京・代々木にて開催されました。養問研は発足当時から、「子どもの権利と人権」を最大限に尊重するとともに、そのためには「働く職員の権利の尊重」も重要とし、そのためには「施設等の民主的な施設運営」のあり方を追求してきました。さらには「福祉と教育の統一」を図り、分野を超えてのネットワークを組んで「研究」と「ソーシャルアクション」に取り組んできた研究会です。

今回の 53回大会を、昨年に引き続き「社会的養護の勇気ある変革を」というテーマにしました。今大会を通じて、社会的養護の現場で、真に子どもの意見表明を大切にし、自立支援や家族支援、里親支援や地域支援等が展開できる社会的養護現場の在り方について討議を重ね、それらのための「勇気ある変革」をするべきと再認識できる大会になったことと確信します。社会の変化にともない子どもたちや職員・支援者にとって真の権利保障が十分に進んでいない実態もみられます。このことから社会的養護施設関係者自らそれらを躊躇することなく取り組んでいくべき時ではないでしょうか。

「子どもの権利と人権の尊重」をすべての児童養護の実践の根幹に据え、いかなる権利侵害も決して容認せず、支援の向上に向けて不断の努力を重ねるとともに社会的困難を抱えるすべての子ども・若者に寄り添い、誰一人取り残さない実践に取り組みます。
そのために社会的養護を支える専門職として長期的かつ働きがいある職場環境の整備に取り組み、児童養護の未来を担う人材の育成と定着を推進していきます。
地域や多様な機関との連携により、平和で子どもが真に大切にされる社会に向けて勇気ある変革に取り組んでいきます。

子どもたちとこれからの社会全体の未来のために、このメッセージを第53回大会に参加したすべての皆さんと共に確認をし、大会アピールといたします。

2026年6月21日　　全国児童養護問題研究会全国大会